

さて、ニッサンメールマガジン第120号をお届けします。

平成28年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」のうち 「経営体強化プロジェクト」及び「人工知能未来農業創造プロジェクト」の 公募の開始

平成28年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」のうち「経営体強化プロジェクト」及び「人工知能未来農業創造プロジェクト」について、事業実施主体（公募主体）である、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター（生研支援センター）において、公募が開始されました。詳細は下記をご覧ください。

http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/161122_21.html

畜産研究部門主催シンポジウム 「転換期における畜産技術開発研究と今後の展開」

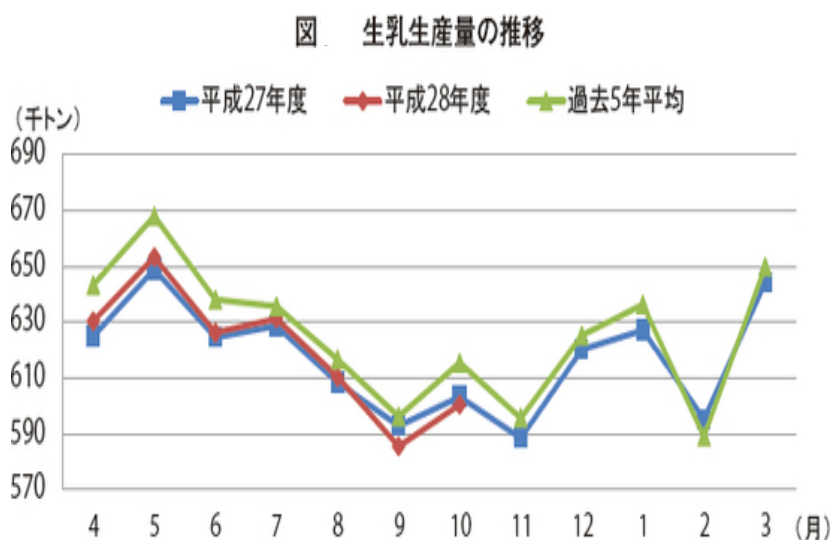
標記のシンポジウムが12月8日(木)につくば市で開催されました。その趣旨は以下のとおりです。

わが国の体系的な畜産技術開発研究が畜産試験場において大正5年に開始されてから100年が経過しました。この間、幾度かの国立研究機関体制の変革を受け、昭和25年に農業技術研究所に統合、昭和36年に畜産試験場として独立、平成13年の独立行政法人化に伴い草地試験場と統合した畜産草地研究所となり、本年4月より農研機構畜産研究部門として改組されました。その間、わが国の畜産業の発展を支えるべく種々の技術開発を行ってきました。

現在、世界経済のグローバル化の波の中でわが国の畜産業のあり方は大きなターニングポイントを迎えるに至っています。この状況の中で、畜産技術研究のより一層の重点化と効率化に資するべく、これまでの研究展開を総括し、今後の研究発展方向を議論しました。

平成28年10月の生乳生産量

平成28年10月の生乳生産量は、60万456トン（前年同月比0.5%減）と2カ月連続で前年同月を下回りました(図)。内訳を見ると、北海道は31万9396トン（同0.3%減）、都府県は28万1060トン（同0.7%減）と、ともに減少しています。減産傾向が続く都府県の中で、最も生産割合が高い関東は、5月以降は減少傾向でしたが、10月は増加に転じ前年同月比0.9%増となりました。（農林水産省「牛乳乳製品統計」）。しかし生乳生産のパターンには大きな変化がありません



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

印刷用の PDF ファイル

本メールマガジンでは印刷用のPDFファイルを添付してあります。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メールリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。